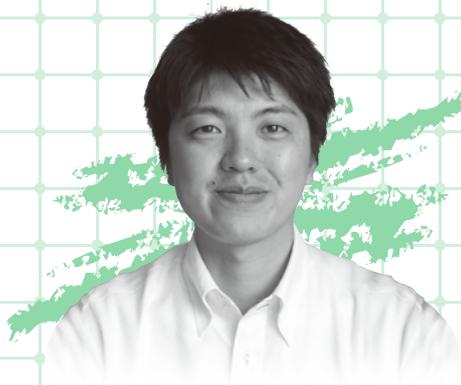


こうほう ショッキング

Vol.51

Kōhō shocking



さいき たくや
佐伯 卓也さん

●プロフィール

34歳。豊玉町仁位出身、美津島町雑知在住。豊玉高校から九州共立大学経済学部へ進学。大学卒業後、福岡のスーパーマーケットで3年間勤務。25歳で帰郷、現在(株)サイキ取締役部長。妻と3歳の長男の3人暮らし。趣味はビリヤードと釣り。好きな時間は、対馬の自然を眺めて気分転換する時。

○お忙しい毎日ですが、どのように息抜きされていますか？

僕は白嶽に登ったりするアウトドア派なのですが、なかなか時間が取れません…。普段は仕事の合間に和多都美神社の周りでお弁当を食べたり、あそびパークや万閑園地に寄り道して、眺めを楽しんでいます。たくさんのお客様の中にいる緊張感を、対馬の自然が癒してくれます。事務所の中にいる時よりも頭の回転が良い気がしますね。そんな時「僕たちは贅沢な中に住んでいるな。ありがたいな」と思います。

○対馬の魅力を感じるのは？

もともと対馬は良い所だと思っただけです。でもここ最近、生産直売所の特産物を見てると「ああ、すごい島だなあ」と思っています。鮮魚をはじめ対馬の海の幸の魅力は、とんでもなくすごいと感じています。島外から来られるスーパー関係の方々も驚かれます。対馬の元気は、特に海のものに支えられていると思うんです。安心・安全な食の宝庫として、今後ますます光が当たるのではないのでしょうか。

○「対馬」を発信する手段として取り組まれていることは？

丸2年になりますが、インタ

ーネット通販サイトの楽天に「対馬ふれあい産直便」という店を出しています。店頭の生産直売所で扱う商品を厳選して提供しています。生産者のネットバンクといったところでしょいか。インターネットを使えない生産者さんもいらつしやいますから、私たちが代わって発信しようと思ひ、出店しました。地産地消から全国へ、対馬の郷土料理や魅力的な海の幸の郷土を紹介したい。私たちは、モノを作るよりも、生産者の方々と全国のお客様とをつなぐ仕事でした。たかつたんです。

○「つなぎ手」としての働きを大切にしたい、ということですね？

ええ。例えば、観光で対馬に来て魅力に触れた人が、ネット対馬の商品とつながつてくれたら。あるいは、対馬を巣立っていった人たちが懐かしい対馬の味に出会って、美味しかったと思ってくれたら、嬉しいじゃないですか。「損か、得か」よりも「やりがい」や「誰かが喜んでくれる」ことに重きを置きたい。島中に、島おこしのために頑張る人がいます。私たちはその一員として、頑張っている人たちを応援できる組織、誰かに喜んでもらえる組織でありたい

いと思っています。
○継続している活動があるそうですね？

自分たちの出来ることを地味だけど長く続けよう、と平成12年から国道沿いの清掃活動をしています。対馬の自然を楽しみに来られる観光客に、きれいな島を見てもらいたい。だから、せめて月1回ごみ拾いを、と思っただけ。社員7、8名のほかに、一般の参加者もいらつしやいます。一緒にして下さる方があれば、ぜひご参加ください。毎月第2月曜の11時から1時間の作業です。

○今後の夢は？

通販の商品を箱詰めする際に、対馬のパッケージを同梱したりしているんです。対馬の美味しいものを食べて、対馬のファンになってくださった方が、いつかは対馬に来てほしい。その方から「来たよ」と声をかけられたら、こんなに嬉しいことはありません。それが夢です。

毎回、登場して下さった方に次の方をご紹介いたたくこのコーナー。次回は豊玉町仁位にお住まいの大石宏明さんです。お楽しみに。